

全ての 災害公営住宅が 整備完了

- ①町営住宅名
②入居開始日



①町営住宅古閑迫団地
②平成31年4月18日



①町営住宅一丁目第2団地
②平成31年4月19日



①町営住宅木倉団地
②令和元年6月11日



①町営住宅旭町団地
②令和元年6月12日



①町営住宅小坂団地
②令和元年9月14日



①町営住宅一丁目第1団地
②令和元年12月10日



①町営住宅上高野団地
②令和2年3月4日

地域一人一人に寄り添った支援を

熊本地震から丸4年を迎え、災害公営住宅も全て完成し、被災者の皆様が安住の地を得られたことを嬉しく思います。このように復旧から復興へと、再建は着実に進んでいます。御船町社会福祉協議会（以下「社協」という。）では、「災害ボランティアセンター」の閉所後、地域支え合いセンターを開所し、仮設住宅における支援に努めてきました。

現在は、災害公営住宅や町単独住宅の見守りと共に「地域交流会」を開催し、地域住民とのコミュニ

ティ形成支援に重点を置いて活動しています。本社協では、新型コロナウイルス感染症の影響で、生活困難者の課題解消等に努めるとともに、皆さまからの寄付や募金の一部を地域福祉活動に活用しています。お困りの方に対しては、地域の一人一人が「手」を差し伸べたり、「耳」を傾けるなど「人と人が支え合う御船町」を目指し、皆様に寄り添った支援を行います。今後とも、町民の皆さまには、一層のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

御船町社会福祉協議会
事務局長 上村 良親

住まいの再建が大きく前進

熊本地震からの復旧復興については、被災者の方々の住まいの再建を最優先の課題として、これまで取り組みを進めてきました。住まいの再建を支援するために整備を進めておりました災害公営住宅7団地100戸が、今年2月末をもってすべて完成しました。ピーク時は800を超える世帯が応急仮設住宅での生活を余儀なくされていましたが、3月末時点における入居戸数は約30世帯までに減少し、住まいの再建が大きく進みました。しかし、仮設住宅からの退

去で再建が終了するわけではなく、真の住まいの再建は、新しい再建先においても安心して地震前と同じように生活できる環境を整えることだと考えています。真の再建を進めるため、令和2年度も引き続き見守り活動や地域コミュニティ形成支援など一人一人に寄り添った再建支援を継続していきます。今後も復興計画の将来像である「みんなが夢を持って住み続けられるまち」の実現に繋がるよう取り組みを進めていきます。



御船町役場 復興課
課長 島田 誠也

熊本地震から4年

復旧期から復興期へ わくわくする御船町を目指してー

あの未曾有の大地震から4年が経過し、御船町は、復旧期から復興期へと新たなフェーズを迎えております。

本町としましては、震災を乗り越えた先に誰もが夢や希望を持ち、笑顔があふれる町にしていきたいという思いを込め、「人をつなぐ」「魅力をつなぐ」「未来へつなぐ」の3つの「つなぐ」を基本理念のとし、「みんながわくわくする御船町」を標榜しております。

そのために、「住み続けたい御船町」、「人を育む御船町」、「活力のある御船町」、

“人が集う御船町”の4本の柱を基本目標としてまちづくりに取り組むことで、これまでよりももっと住みよく、もっと魅力にあふれ、もっとわくわくする御船町を築いていく所存です。

さらに、震災復興に向けて重点的に取り組む13の事業を“わくわくプロジェクト”として展開してまいります。

今後とも町民と行政とが一体となった共働のまちづくりの推進にご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

御船町長
藤木 正幸

復興期

震災前よりもさらに発展するために、復旧したインフラの活用等を図りながら、まちづくりを進める期間です。計画期間は、令和2年度から4年間です。

計画期間

年 度	平成30年度	31年度 (令和元年度)	令和2年度	3年度	4年度	5年度
総合計画	第5期基本構想		第6期基本構想(8年間)			
	第12期基本構想		第13期基本計画			
震災復興計画			復興基本方針			
	復興計画(復旧期)		復興計画(復興期)			

第6期御船町総合計画
わくわくプロジェクト始動

雇用環境の創出



国道443、445号沿線の土地利用を検討して、新たな人の流れを中心市街地へ呼び込み、まちの活性化を図ります。

移住定住の促進



御船町に興味を持っている人に、家屋などの賃貸・分譲情報を提供するとともに専門の窓口で丁寧に対応し、移住定住につなげます。



国民的な人気漫画「ワンピース」のキャラクターであるブルック像を中心に音楽活動や表現活動の場として広く利用を呼びかけます。